

西高椅遺跡

—（快速で安全な道づくり事業費（補助）一般県道結城石橋線延島工区に伴う発掘調査）—

2020.3

栃木県教育委員会
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

に し た か は し

西高椅遺跡

—（快速で安全な道づくり事業費（補助）一般県道結城石橋線延島工区に伴う発掘調査）—

2020.3

栃木県教育委員会
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

序

西高椅遺跡は、栃木県の南部、小山市に位置しています。遺跡の所在する小山市東部梁地区は、縄に恵まれた地域であるとともに、縄文時代の環状盛土遺構などで知られる国指定史跡の寺野東遺跡や、北に続く梁古墳群、西高椅古墳群などの多くの遺跡や古墳群が所在しております。

この度、栃木県県土整備部による、一般県道結城石橋線延島工区拡幅工事に先立ち、路線内に所在する遺跡の取扱いについて、関係機関と協議の上、記録保存を目的とした発掘調査を行いました。

発掘調査では、横穴式石室や土壙墓を確認し、西高椅古墳群の北西の広がりを知る上で貴重な資料を得ることができました。

本報告書は、西高椅遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。本書が県民の皆様にとって郷土の歴史を理解する一助になるとともに、各方面において広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多大なる御協力をいただきました、栃木県県土整備部、小山市をはじめとする関係機関、並びに関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

令和2（2020）年3月

栃木県教育委員会

教育長 荒川政利

例 言

- 1 本書は、栃木県小山市高橋地内に所在する西高橋遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、西高橋遺跡発掘調査（快速で安全な道づくり事業費（補助）一般県道結城石橋線延島工区に伴う発掘調査）に係る埋蔵文化財調査として、令和元年度に実施した記録保存のための発掘調査である。
- 3 調査は、栃木県より財団法人とちぎ未来づくり財団へ業務委託され、財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センターが、栃木県教育委員会事務局文化財課の指導のもと実施したものである。
- 4 本発掘遺跡の現地調査及び整理報告作業期間は以下の通りである。
平成31・令和元年度 発掘調査（発掘）
期間 平成31年（2019）年4月1日～令和元（2019）年5月30日
担当者 調査課副主任 植木茂雄
令和元年度 発掘調査（整理・報告）
期間 令和2年（2020）年2月1日～令和2（2019）年3月30日
担当者 調査課副主任 植木茂雄
- 5 本書の執筆・報告書作成は植木茂雄が行った。
- 6 西高橋遺跡の調査にあたり、以下の事業を委託した。
基準点測量及び基準杭設定・航空写真撮影・遺構実測図作成業務：株式会社シン技術コンサル
- 7 発掘調査中における遺構の写真撮影は発掘調査担当者が行った。
- 8 発掘調査・報告書作成にあたっては、次の方々から御指導・御協力を賜った。
栃木県土整備部 栃木県教育委員会事務局文化財課 小山市教育委員会
- 9 発掘調査の参加者は、次の通りである。
石島守矢 吉田 豊 玉野久雄 田中国夫
- 10 本遺跡の調査概要是、栃木県埋蔵文化財保護行政年報・埋蔵文化財センター年報で一部報告されているが、本書をもって正式報告とする。
- 11 本遺跡の出土遺物・図面写真及び資料等については、栃木県が保有し、栃木県埋蔵文化財センターが保管・管理している。

凡 例

1 遺跡

- (1) 遺跡の略号は OY-NT (OYamashi-NishiTakahashi) である。

2 遺構

- (1) 遺構の略号は、奈良国立文化財研究所が用いる SZ(古墳)・SD(溝)・SK(上坑)に準拠する。
(2) 遺構図の縮尺は挿図中にスケールで示す。
(3) セクション図の「L.H.」は線上が標高を示す。
(4) 方位は国土方眼座標に従っている。
(5) 上層堆積図の番号は堆積の順序を示すものではない。
(6) 写真的縮尺は不統一である。

3 遺物

- (1) 脂土の色調は『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修 財團法人日本色彩研究所色票監修 1996年版)を参照した。

目 次

序

例言

凡例

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法	2

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4

第3章 発見された遺構と遺物

第1節 概要	13
第2節 発見された遺構と遺物	13
第3節 まとめ	19

挿図目次

第 1 図 遺跡の位置図	1
第 2 図 遺跡調査箇所	3
第 3 図 西高椅遺跡周辺の遺跡	6
第 4 図 西高椅遺跡周辺の古墳と寺院・官衙関係遺跡分布図	7
第 5 図 西高椅遺跡周辺図	8
第 6 図 遺構配置図	14
第 7 図 西高椅 115 号墳遺構平面図 (1)	15
第 8 図 西高椅 115 号墳遺構平面図 (2)	16
第 9 図 西高椅 115 号墳出土遺物	17
第 10 図 西高椅 115 号墳遺構平面図 (3)	17
第 11 図 西高椅遺構平面図	18

図版目次

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 図版一 西高椅遺跡航空写真
(北西から) | 西高椅 115 号墳 側壁礫抜き取り状況
(南西から) |
| 西高椅遺跡航空写真
(北から) | 西高椅 115 号墳セクション
(南東から) |
| 図版二 西高椅遺跡航空写真
(北から) | 図版九 西高椅 115 号墳セクション
(南から) |
| 西高椅遺跡航空写真
(真上から 上が南) | 西高椅 115 号墳セクション
(北西から) |
| 図版三 西高椅遺跡航空写真
(真上から 上が南) | 図版十 西高椅 115 号墳羨道部
(南から) |
| 西高椅遺跡航空写真
(真上から 上が南) | 西高椅 115 号墳羨道部
(南西から) |
| 図版四 西高椅遺跡航空写真
(真上から 上が東) | 図版十一 SK-03 完掘状況
(南から) |
| 図版五 西高椅遺跡航空写真
(北東から) | SK-03 セクション
(南から) |
| 西高椅遺跡航空写真
(北東から) | 図版十二 SK-04 完掘状況
(南から) |
| 西高椅 115 号墳 側壁残存状況
(南から) | SK-04 セクション
(南から) |
| 西高椅 115 号墳 側壁残存状況
(南西から) | 図版十三 SK-05 完掘状況
(南から) |
| 西高椅 115 号墳 側壁残存状況
(南東から) | SK-05 セクション
(東から) |
| 西高椅 115 号墳 完掘状況
(南西から) | 図版十四 SD-02 完掘状況
(南から) |
| | SD-02 セクション
(南から) |

第1章 調査の経緯

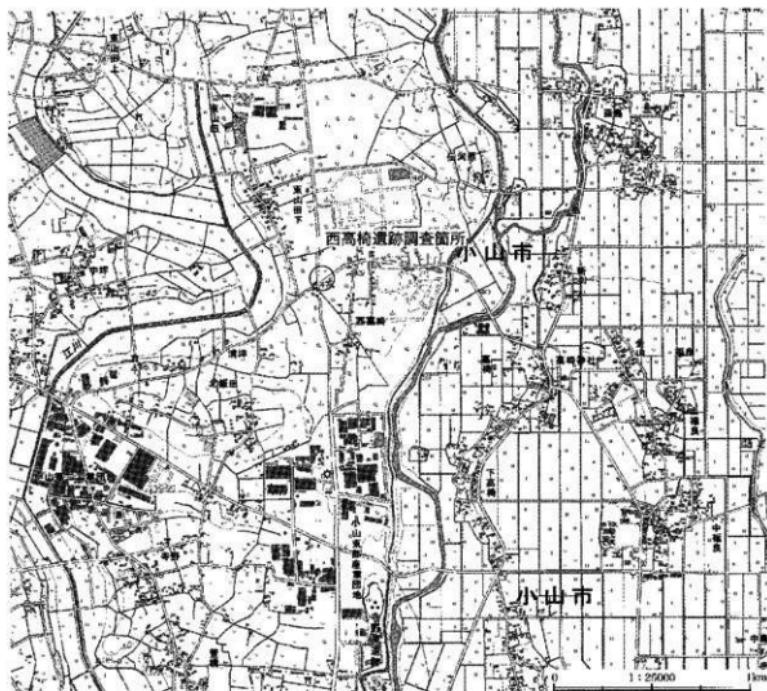
第1節 調査に至る経緯

西高柳遺跡の所在する小山市は、栃木県南部に位置し、東京からは北に約60km、県都宇都宮市からは南に約30kmの距離にある。小山市の東側は茨城県に接しており、隣接市町は東に真岡市・茨城県結城市及び筑西市、南に野木町・茨城県古河市、西に栃木市、北は下野市に接している。

地形は、関東平野のほぼ中央にあるため起伏がほとんどなく、市の中央部には忍川が、東部に鬼怒川が、西部に巴波川が流れおり、豊かな自然と、数多くの歴史的・文化的資産を有し、農業・工業・商業の調和したまちとして発展している。

交通網は、国道4号と新4号国道、国道50号の広域幹線道路が市内を貫通しているほか、鉄道が、南北のJR宇都宮線と東北新幹線を軸に、東からJR水戸線、西からJR両毛線が小山駅で結節している。このため、交通の要衝地となっており、東京圏から60kmという立地や利便性を生かして、工業団地や住宅地が増加し、現在人口16万人を超え、栃木県下第2の都市として躍進している。

一般県道結城石橋線は、結城市結城を基点とし、栃木県下野市石橋を終点とする総延長約15kmの道路で



第1図 遺跡の位置

ある。道路は、西高橋遺跡に近接して南北に通っており、遺跡の周辺には、小山東部工業団地、小山東部第2工業団地などの工業団地が造成されて、貨物の輸送が増加している。このため、栃木県県土整備部では、一般国道新城石橋線延島工区の道路改良（現道拡幅）を計画し協議をすすめてきた。これにより、西高橋遺跡の発掘調査は、「西高橋遺跡発掘調査（快速で安全な道づくり事業費（補助）一般国道新城石橋線延島工区に伴う発掘調査）」として実施することとなった。

栃木県県土整備部（以下、県土整備部）と栃木県教育委員会事務局文化財課（以下、文化財課）において、平成25（2013）年10月「平成25年度埋蔵文化財個別打合せ会」において、一般国道新城石橋線延島に係る埋蔵文化財の収穫いと所在調査の実施について協議がなされた。

それを受けて、平成27（2015）年1月19日に文化財課では所在調査を実施した。その結果は、事業予定地は畠畠の理蔵文化財包蔵地である高橋3号墳に隣接していることや、近隣の西高橋遺跡では、近年、小山市工業団地に閑連した埋蔵文化財の発掘調査が実施され、新たに多数の古墳が発見されていることから、T事に先立ち試掘調査が必要であることを県土整備部に回答した。

文化財課では、平成29年（2017）年度から当該年度の着工予定地について試掘調査を開始し、平成30（2018）年9月19日に実施した試掘調査では、石室と推定される遺構等を確認した。平成30（2018）年9月26日に、この調査結果を県土整備部栃木土木事務所に報告し、発掘調査を実施する方向で調整をすすめた結果、平成31（2019）年度に発掘調査を実施することとなった。

平成31（2019）年度に入り、4月1日付け文財号外で文化財課長から公益財團法人とちぎ未来づくり財團理事長宛「平成31年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（西高橋遺跡）の費用見積について（依頼）」において見積書の提出依頼がなされ、同日付とちぎ文号外「平成31年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（西高橋遺跡）の費用見積について（回冷）」により、見積書を提出した。

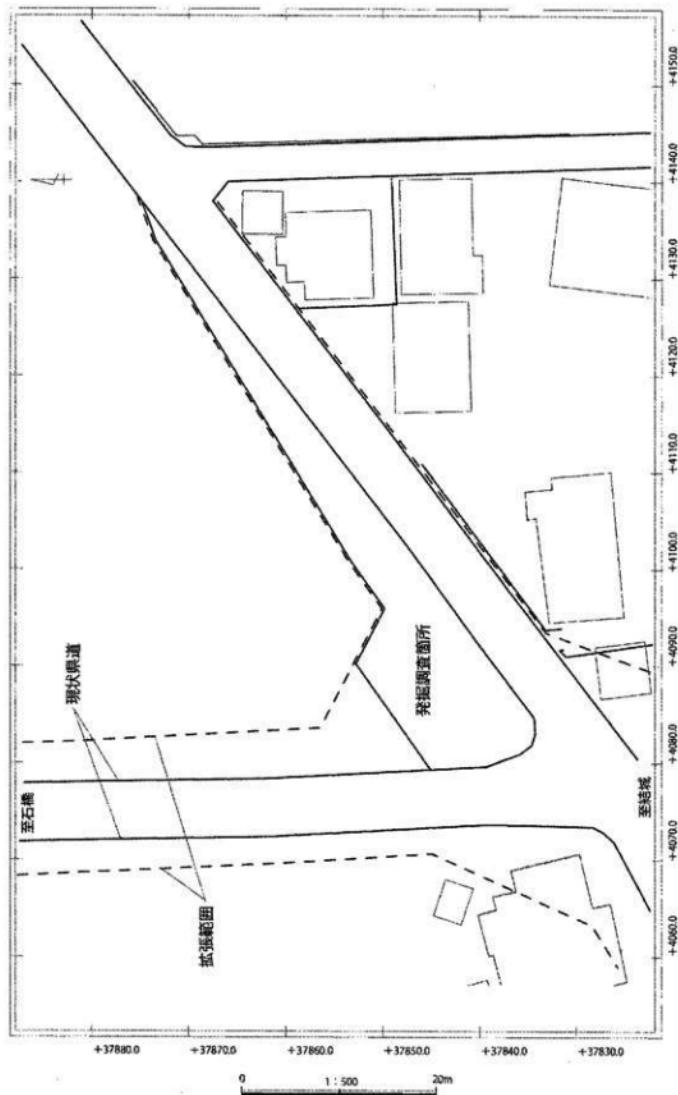
平成31（2019）年4月1日付け文財号外で「平成31年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（西高橋遺跡）」の契約の締結について（依頼）があり、「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書」に基づき、栃木県と公益財團法人とちぎ未来づくり財團の間で委託契約が締結された。発掘調査は平成31年4月から令和元年5月まで行い、整理・報告書作成作業は令和2年2月から3月に実施することとなった。

発掘調査、整理作業の進捗に合わせ、作業の内容に変更が生じたため、令和2（2020）年2月25日付け文財号外で文化財課長から公益財團法人とちぎ未来づくり財團理事長宛「令和元（2019）年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（西高橋遺跡）の費用見積について（依頼）」において、契約変更のための見積書の提出依頼がなされ、同日付とちぎ文号外「令和元（2019）年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（西高橋遺跡）の費用見積について（回答）」により、見積書を提出した。令和2（2020）年2月25日付け文財号外で「令和元（2019）年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（西高橋遺跡）の委託契約の変更について（依頼）」があり、「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書の変更契約書」に基づき、栃木県と公益財團法人とちぎ未来づくり財團の間で変更契約が締結された。

第2節 発掘調査の方法と経過

発掘調査は、県道の拡幅工事に伴うもので、調査区は幅が狭く細長くなっている。県道は交通量が多いため、調査区の道路に面した箇所には安全柵を設置した後、表土除去を実施した。表土除去は重機により、ローラー車まで掘削し、表土除去後に測量用の基準杭を設定し、発掘調査は実施した。

発掘調査は、作業員による遺構の振り込みの進捗に合わせ、遺構の土堀断面や平面図の作成を実施した。



第2図 発掘調査範囲図

現地調査は平成31年4月から令和元年5月の2ヶ月間で終了し、令和2年2月からの整理作業などを経て報告書刊行に至った。

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

西高椅遺跡は、栃木県小山市大字高椅および大字梁に所在する。遺跡は、栃木県域の南端近くに所在する小山市域の東部から、茨城県域の西部にある結城市との境界線となって南へ流れる田川の西側の台地上にある。「鬼怒川低地」とよばれる、田川の周辺の低地を東側に望む位置である。

この台地は、関東平野の北部を東方（太平洋側）へ流れる鬼怒川と、その支流である田川が東を画している。田川と鬼怒川の合流地点は、西高椅遺跡から南へ6.5kmの位置にある。西高椅遺跡のある台地は、栃木県域では「小山台地」と呼ばれ、宝木段丘面に属する。また、茨城県城に入ると「結城台地」と呼ばれる、鬼怒川西岸にひろがる下総台地の最北端部にあたる。小山市・結城市は、中央部の小山台地と結城台地上に市街地が立地し、東を鬼怒川低地、西を恩川低地ではざまれた平坦な地形である。関東平野の北縁まではまだ距離があるので、丘陵や山地は北方の栃木市・宇都宮市付近まで見られない。

西高椅遺跡の西方ではこの台地を浸食して流れる西仁連川や江川などの小支流が存在する。台地を開析し、東側の鬼怒川低地よりも幅が狭い谷底平野を形成している。西高椅遺跡から西方600～800mの至近距離にある江川の開析谷は、ここから上流へ約3km付近から始まる。西高椅遺跡の西方にある小山添遺跡付近では、開析谷の谷底から台地中央部までの比高差は約2～6mである。谷底平野の幅は平均して約200mで、「ヤト田」と呼ばれる谷水田に利用されている。この江川は、西高椅遺跡の南西6kmで西仁連川に合流する。西仁連川は南方へさらに続いて、下総台地を開析して茨城県岩井市・水海道市にまたがる菅生沼で飯沼川へ合流し、千葉県野田市で現在の利根川に入る。本来はこの付近で鬼怒川（旧名称は常陸川）に合流していたのだろう。西仁連川の開析谷を上流へたどると、JR東北本線の東側に沿って北へさかのぼり、下野薬師寺跡（栃木県下野市）のすぐ西を通り、西高椅遺跡から9km上流の多功南原遺跡（栃木県河内郡上三川町大字多功）付近まで続く。

西高椅遺跡の地点では、南北に伸びる台地の上面が南へゆるく傾斜する。田川西岸から江川東岸までの台地東西幅は約600～750m、標高は45～46mである。台地の中央部には狭く浅い小谷があり、北側の公園墓地「やすらぎの森」の方への延びている。田川による台地の浸食もあったであろうし、田川のすぐ西側に添って流れる後世の吉田用水が西高椅遺跡の台地東端を少し削土・破壊しているので、段丘崖が急傾斜であり、西高椅遺跡80号墳などの東部を吉田用水が破壊していると見られる。

第2節 歴史的環境

西高椅遺跡は、旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代および近世・近代の各時代にわたる遺跡である。『小山市遺跡分布図・地名表 改訂版』（小山市教育委員会1997）によると、市遺跡番号382・西高椅遺跡・規模1000×450mの散布地で、縄文時代～近世の遺物と「住居跡・土師器」が確認されている。今回報告する発掘調査の結果、縄文～平安時代と、近世～近代の遺構・遺物に加えて、旧石器時代の礫群と、後世の遺構に混入した状況で旧石器時代の石器が確認された。

西高椅遺跡に、旧石器～弥生時代の集落・遺物散布地と、古墳～平安時代の墓域が営まれた各時代について、

周辺の歴史的環境を解説する（第3・4図）。

西高椅遺跡に墓域が出現した古墳時代前期には、北東 6km の三王山地域に最も有力な前方後方墳が見られる。西高椅遺跡の初期群集墳が最も栄えた古墳時代中期には、南西 13km の寒川地域と南 8km の林・上山川地域に大形古墳が築かれる。また、田川に添って 16km をさかのぼった東谷・中島地域にも大形古墳がある。古墳時代後期には、北西 9km の国分寺地域と、北 8km の薬師寺地域に下毛野の政治的中心を示す大形古墳が主に後期に築かれ、南西 12km の千駄塚・間々田地域と、南 8km の林・上山川地域にも有力古墳が造られる。これらの有力地域の中間に西高椅遺跡が所在し、中・小規模の中期古墳を中心として前期古墳から後期・終末期古墳までが数多く集まってつくられた地域である。

西高椅遺跡に墓域、そのすぐ南に隣接する寺野東遺跡に集落が成立する奈良・平安時代には、都賀郡の国分寺周辺地域に下野国府・国分寺・薬師寺地域に下野国河内郡家（多功遺跡）と下野薬師寺・間々田地域に下野国寒川郡家、下總國結城郡の上山川地域に結城廃寺がみられ、それぞれが各郡の中心地として続いている。西高椅遺跡は、下野・下總両国の境付近にあり、「高椅」の地名と、田川東岸の延喜式内社である高椅神社からみて、下總國結城郡高椅郷に含まれる遺跡である。

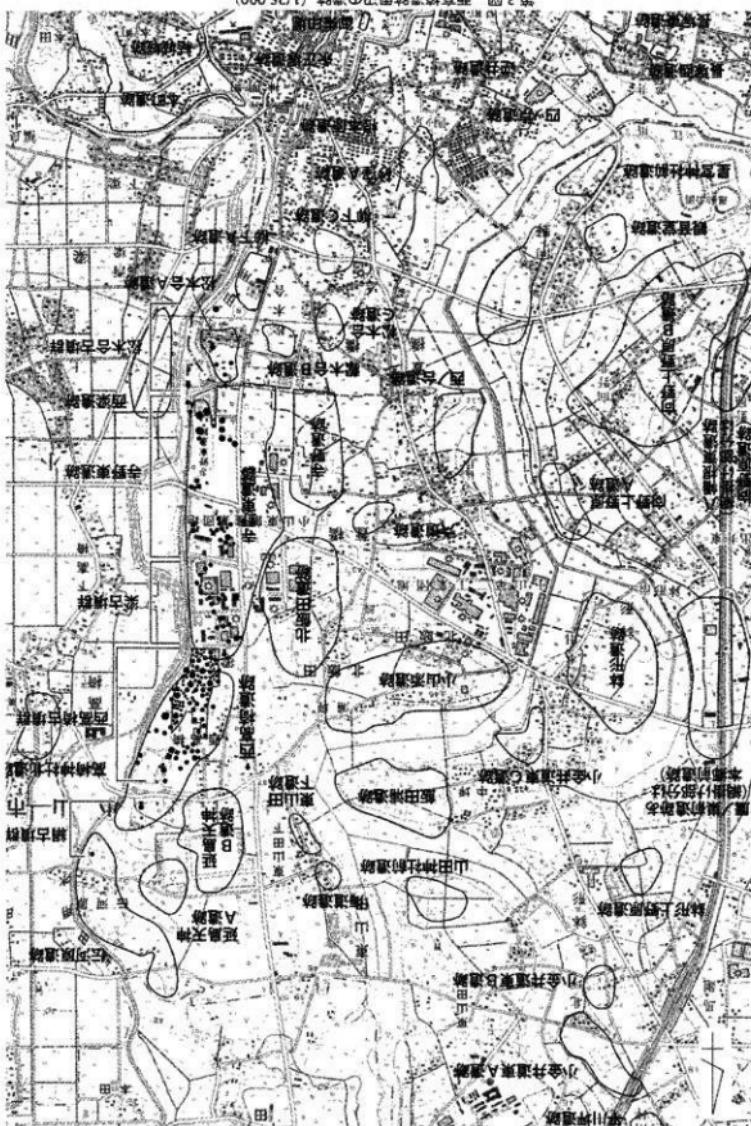
次に、西高椅遺跡と関わる各時期の周辺遺跡を紹介する。

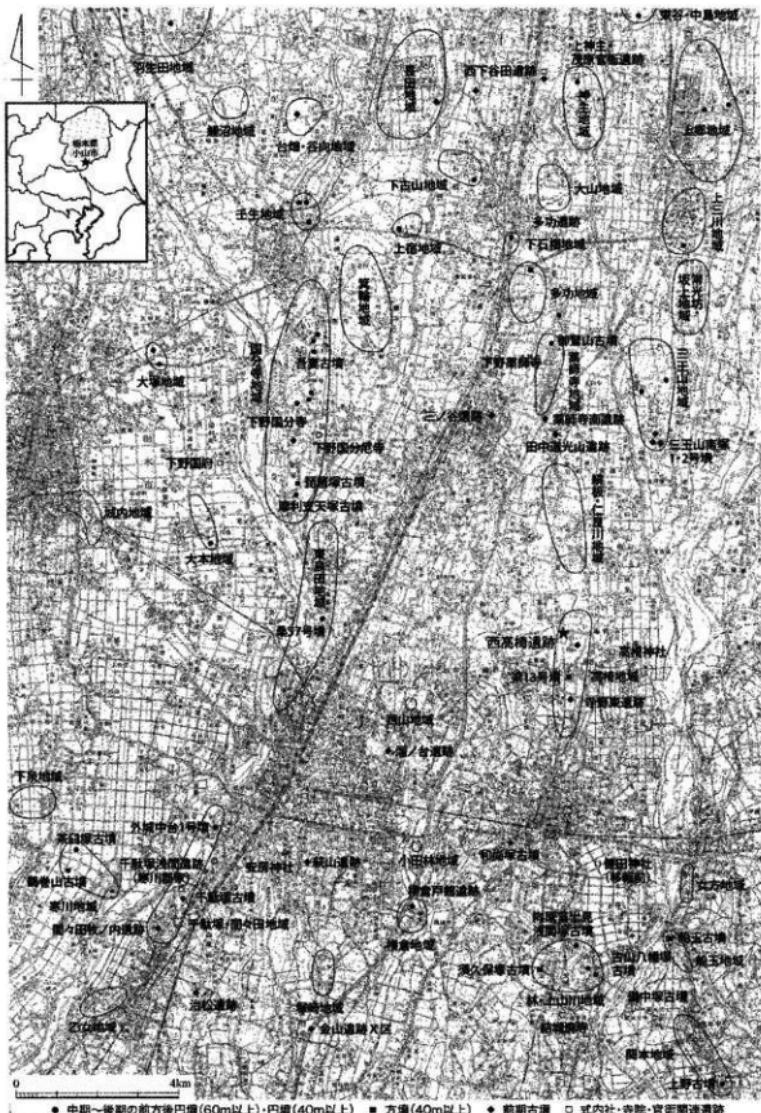
〔旧石器時代〕西高椅遺跡の南西 3km にある八幡根東遺跡では、浅間黄色軽石（As-YP）前後の層位にある 9 商所のユニットからナイフ形石器・彫器・削器が出土した。西 2.2km の本郷前遺跡の国道 4 号調査区（現在の遺跡名称は鷺ノ巣前遺跡）では、ソフトローム中のブロック 2 カ所からナイフ形石器・尖頭器・搔器・彫器が出土している。周辺では、本郷前遺跡の別地点で尖頭器が採集されている。西高椅遺跡のすぐ南に隣接する寺野東遺跡では 3 枚の文化層が確認された。赤城一鹿沼軽石層のすぐ上には剥片など 7 点があり、浅間板鼻輕石（As-BP）の上下の文化層からも、多数のナイフ形石器などが検出されている。寺野東遺跡 D 地点第 III 文化層（III 層）の 3 号ブロックの礫群が、As-YP より下位・As-BP よりも上位にある層位からみて、西高椅遺跡 1 号礫群と近い時期の事例である。西高椅遺跡 1 号礫群から寺野東 D 地点 3 号ブロック礫群までは、南西に 900m の距離である。礫の石質に安山岩・ホルンフェルス（泥質）・砂岩が多いことや、礫の大きさも類似する。

〔縄文時代〕西高椅遺跡では縄文時代の遺構・遺物は少ない。縄文時代でも詳しい時期が不明の土坑や陥穴状土坑の他には、縄文後期前半の土坑および後期末の遺物集中地点がやや目立つ。すぐ南にある寺野東遺跡は縄文中期以後の大規模集落で、中期には住居跡 75 栋と多数の土坑が調査された。後期・晚期の寺野東遺跡では、後期前半の水場遺構 1 商所と住居跡 70 栋が調査された。さらに、後期後半～晚期には外径 165 m の環状盛土遺構が形成され、大量の遺物が出土している。後期後半から晩期では南 1.6m の松木合 A 遺跡も知られている。西高椅遺跡のすぐ西方にある飯田浦・小山添の両遺跡で後期前半の遺物が採集されている。

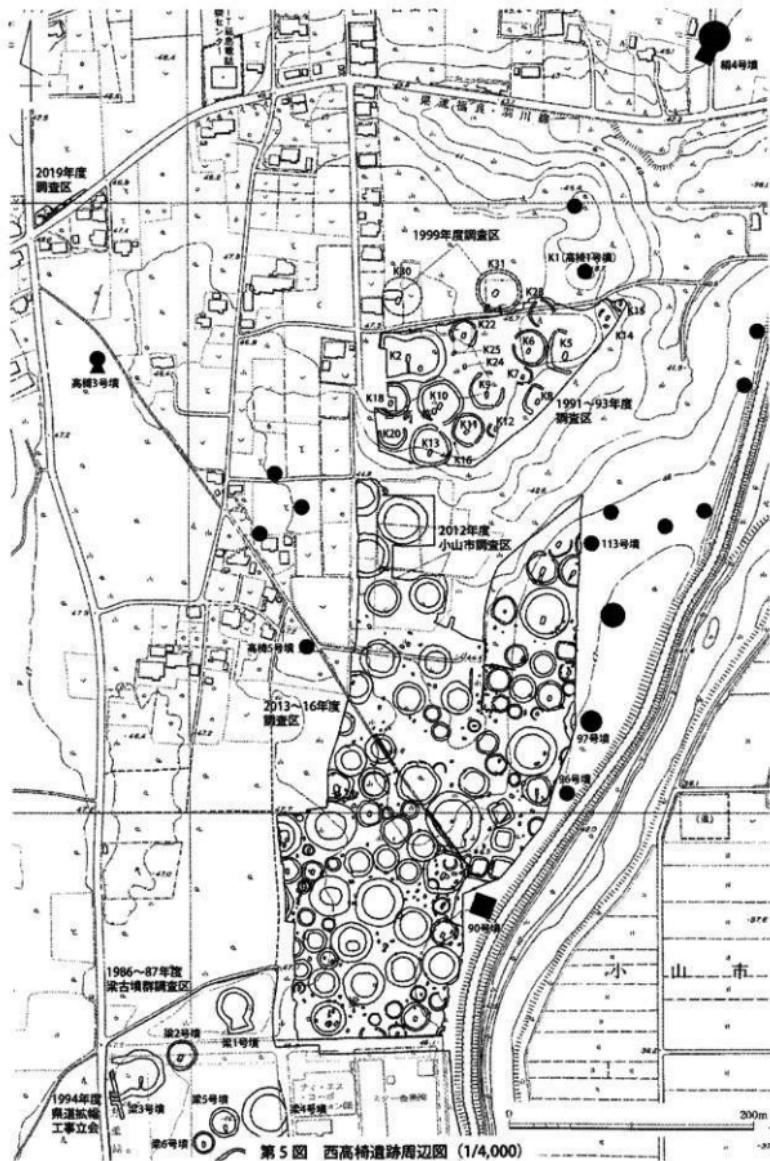
〔弥生時代〕西高椅遺跡では弥生時代の遺構が確認されていない。後期の二軒屋式土器が遺構に伴わないで少量出土している。弥生時代の遺跡や遺構は少ない。南西 4km の西山遺跡 3 次調査区に弥生中期初頭から後半までの土器が見られ、南西 5km の潤ノ台遺跡（県調査区）で中期後半の竪穴建物跡 2 棟と磨製石器が知られる。後期の集落は、南西 4km の八幡根東遺跡（県調査区）に竪穴建物跡 2 棟と土坑 1 基、同じく南西 4km の西山遺跡 1 次調査で竪穴建物 1 棟があり、北東へ 6km の三王山南塚 2 号墳の下層をはじめとする三王山台地に弥生後期集落がある。西仁連川の流域では南西 11km の金山遺跡で後期の建物が 1 棟ある。思川流域では、東岸の小山市乙女地域で小規模な集落が確認されている（乙女不動原北浦遺跡 B 地点・乙女不動原龜田遺跡）。

第3図 西高橋適用用の道路 (1/25,000)





第4図 西高崎遺跡周辺の古墳と寺院・官衙関連分布図(1/12万)



第5図 西高崎遺跡周辺図 (1/4,000)

〔古墳時代〕西高椅遺跡では古墳時代前期の方墳が5基確認されている。前期の集落は南1kmの寺野東遺跡と西1kmの小山添遺跡で調査され、南西3.5kmの結城市四ツ京遺跡でも遺物が知られる。寺野東遺跡は、前期の竪穴建物跡91棟と方形周溝墓（方墳）7基を調査している。寺野東集落は田川および鬼怒川低地よりも西側にある開析谷の東西に形成されている。小山添遺跡と四ツ京遺跡も江川の開析谷に面する。寺野東遺跡の墓域は、開析谷ではなく東側の田川を望む台地端に3～4基の方墳が2群ある。西高椅遺跡の前期方墳群も田川に近い東側に5基がまとまり、寺野東の墓域と共に通る。狭い谷に面する寺野東集落や小山添集落が、田川に面する台地端部を墓域に選定して、寺野東と西高椅の前fang方墳群を形成したものであろう。

前期の大形古墳である前方後方墳は小川市域では確認されていない。西高椅80号墳の辺長30mが小山地域の前期方墳では最大級である。西高椅遺跡から北東へ6kmの下野市三王山古墳群では、田川の東岸に前方後方墳の三王山南塚1・2号墳と方墳の朝日鏡音1号墳がある。また、第4図に◆形で表示した下野市薬師寺南・三ノ谷・田中道光山遺跡と、小山市溜ノ台・萩山・横倉戸館・金山X区・治松の各遺跡は、小山台地の小支谷に面して古墳前期の方形周溝墓（方墳）が調査されている。小山市牧ノ内古墳群は小支谷ではなくて恩川に近い位置にある。

古墳中期後半の初期群集墳は、西高椅遺跡の中心になる遺構である。南に続く梁古墳群や、寺野東遺跡の中期古墳17基から、結城市松木合浅間塚古墳（墳長35m）までが、第4図で「高椅地域」と表示した田川西岸の中期古墳群に含まれる。恩川流域では、東島田地域の人日山16号墳と桑57号墳が、穴窓焼成のB種ヨコハケの埴輪を作り、西高椅91号墳とともに小山周辺地域では最も早く埴輪を採用している。林・上山川地区では林愛宕塚古墳（長40m）が中期末葉の遺物を出土している。中期の大形円墳は、南8kmの林・上山川地区に備中塚古墳（径48m）・向原富士見浅間塚古墳（径46m）と、南西13kmの寢川地区に鶴巻山古墳（中期初頭、径53m）がある。小山地域で最大の中期前方後円墳は、中期後葉に寒川地域の茶臼塚古墳（墳長77m）、中期末に摩利支天塚古墳（墳長120m）がある。

古墳中期の集落は、西高椅遺跡から西3.5kmの小山市向野原遺跡（現在の遺跡名では八幡根東遺跡の北東部）が最も近い。北方の下野市二ノ谷・谷館野北・三ノ谷・谷館野西・烏森・柴工業団地内A地区や、西方～南方の小山市向野原・西山・八幡根・下犬塚2次・溜ノ台・結城市本田・善長寺・小山市田間東道北・萩山・西裏・塚崎・金山・五料・亀屋・成沢・喜沢海道間・乙女不動原北浦・乙女不動原亀田の各遺跡が調査されている。田川や恩川のような主要河川の近くには少なく、小山台地を開析する小支谷に面しているものが多い。西高椅遺跡よりも西方～南方の江川・西仁連川流域には石製模造品製作遺跡が集中し、向野原・西山・八幡根・下犬塚2次・善長寺・田間東道北・西裏・塚崎・金山IV区・金山IX区の各遺跡がある。時期は中期後半が多い。

古墳時代後期・終末期の集落は、西高椅遺跡の周辺では西方4kmにある八幡根東・八幡根の両遺跡が調査されている。古墳後期の江川・西仁連川流域には、小山市西山・横倉戸館・塚崎古墳群と、結城市小田林古墳群があるが、小規模で実態も不明瞭であり、西山遺跡・横倉戸館古墳群・溜ノ台遺跡92年度調査区の部分的な調査結果からみて実際は古墳前期方墳群や中期の初期群集墳である可能性が高い。江川・西仁連川流域には大形墳ではなく、前方後円墳は江川東岸の結城市小田林神明塚古墳（墳長22m）がある。田川西岸には後期の小形前方後円墳が多く、北方に別出山（墳長37m）・絹4号墳（30m）、南側に梁3号墳（41m以上）がある。後期古墳は恩川流域においても密度が高く、国分寺地域の飯塚古墳群、東島田地域の東島田・稻葉郷古墳群、千駄塚・間々田地域の外城・宮内・牧ノ内・間々田八幡・間々田六本木の各古墳群がある。外城・宮内・牧ノ内古墳群は終末期まで安定して継続する。

後期の首長墳は、国分寺地域の琵琶塚（墳長 124.8m）・甲塚・愛宕塚・山王塚の各古墳と、結城庵寺に近い林・上山川地域の古山八幡塚・上山川瓢箪塚古墳がある。終末期の方墳は田川流域に多く、下野薬師寺跡の北西にある多功大塚山（辺長 53m）・多功南原 1 号墳（辺長約 30m）と、西高椅地域の柴 13 号墳（辺 40m 以上）が大きい。思川流域では千駄塚・間々田地域にある宮内 5 号墳（辺長 35m）が方墳だが、北方の下野市丸塚古墳（74m）や南方の小山市千駄塚古墳（70m）のような円墳のほうが規模が大きい。

【奈良時代・平安時代】西高椅遺跡の周辺地域は、下野国都賀郡と下総国結城郡の境付近にあり、小山市高椅の地名から下総国結城郡高椅郷、南 6km の結城庵寺周辺が結城郡結城郷、南西 12km の小山市牧ノ内古墳群周辺が下野国寒川郡真木郷にあたると考えられている。

西高椅遺跡周辺の集落遺跡は、南に隣接する寺野東遺跡で 8～9 世紀代の堅穴住居跡 91 棟が調査され、方形周溝構 5 基や灰軸短頭壺を用いた火葬墓を含む墓域も伴う。西高椅遺跡では古墳の周溝から 8～9 世紀代の土器が出土する事例があり、小山市教育委員会による公園墓地の調査区では平安時代の火葬骨壺器も確認されている。寺野東集落と関連する墓域のひとつとして西高椅遺跡も利用されていたと見られる。周辺の集落としては、南西 3～4km に本郷前遺跡の国道 4 号調査区（現在の遺跡名称は鷹ノ巣前遺跡）・八幡根東遺跡・八幡根遺跡がある。南西に 4～5km 離れると、西山遺跡・溜ノ台遺跡で 8～10 世紀の集落が調査されている。

下総国結城郡家は、南 9km の結城庵寺や林・上山川地域の有力古墳周辺に存在するとみられる。西高椅遺跡から下野国府は北西へ 10km、下総国府は南へ約 66km の距離である。南西 11km にある千駄塚浅間遺跡は下野国寒川郡家の可能性が指摘される。

寺院では、第 6 図に □ で表示した結城庵寺・下野薬師寺・下野国分寺・國分尼寺がある。南西 4km の西山遺跡では遺跡の一部で 8 世紀中～後葉の堅穴住物跡 4 棟を調査し、8 世紀中葉の 2 棟から「寺」の墨書き土器が合計 9 点出土している。

北西 6km の下野市三ノ谷遺跡や北台遺跡では、推定東山道の道路遺構が調査されている。下野国府から下野薬師寺へ向かう経路である。手工業生産遺跡は、小山市間々田の乙女不動原瓦窯跡が下野薬師寺・結城市の八幡瓦窯跡が結城庵寺に供給した奈良時代の瓦専業窯である。須恵器は、奈良時代では南東約 32km にある茨城県土浦市の新治窯跡群からこの地域に製品が多く供給される。平安時代になると西高椅遺跡から南へ約 17km の地点に三和窯跡群が成立し、この地域の須恵器の主体は新治窯製品から三和窯製品に転換する。平安時代の製鉄・鍛冶関連遺跡としては、西仁連川の流域では南西 11km に小山市金山遺跡があり、その南方にても大境遺跡がある。

〔参考文献〕

- 秋山隆延 1988 「西山遺跡発掘調査報告書」 小山市文化財調査報告書 21 集 小山市教育委員会
- 伏川勝雄 2010・2011 「神鳥谷遺跡・神鳥谷曲輪跡の調査」（第 1 分冊・第 2 分冊） 小山市文化財調査報告書 77・78 集 小山市教育委員会
- 小山市文化財調査報告書第 77・83 集 小山市教育委員会
- 秋山隆延 1997・2012・2017 「牧ノ内」 I・II・III 小山市文化財調査報告書第 40・85・101 集 小山市教育委員会
- 伏川勝雄・武部真充・福山俊第 2000 「溜ノ台」 I 小山市文化財調査報告書第 49 集 小山市教育委員会
- 秋山隆延 2000 「溜ノ台」 II 小山市文化財調査報告書第 47 集 小山市教育委員会
- 秋山隆延・栗原洋 2013 「市内遺跡と国庫補助事業による発掘調査報告書 1-2」 小山市文化財調査報告書第 90 集 小山市教育委員会

- 秋山隆雄 2015・2016 『尾張跡 豊見塚古墳 発掘調査概報』Ⅰ・Ⅱ 小山市文化財調査報告書第 94・100 集
小山市教育委員会
- 秋山隆雄 2016 『小山城跡』Ⅲ 小山市文化財調査報告書第 99 集 小山市教育委員会
- 岩上照朗・篠原祐一・龜田幸久・太田嘉彦・斎藤弘 1994 『田間街道北遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 149 集
栃木県教育委員会・財団法人栃木県文化振興事業団
- 岩上照朗・篠原祐一・斎藤弘 1994 『塙崎遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 150 集
栃木県教育委員会・財団法人栃木県文化振興事業団
- 岩上照朗・龜田幸久・斎藤弘 1995 『横倉宮ノ内遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 161 集
- 岩上照朗・伸山英樹 1995 『長福城跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 158 集
- 栃木県教育委員会・財団法人栃木県文化振興事業団
- 内山敏行・飯塚俊昭・龜田幸久・岩上照朗 1997 『八幡根遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 189 集
栃木県教育委員会・財団法人栃木県文化振興事業団
- 内山敏行・龜田幸久・岩上照朗 1997 『横倉戸遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 190 集
- 栃木県教育委員会・財団法人栃木県文化振興事業団
- 小山市教育委員会文化課文化財保護係 1997 『小山市遺跡分布図・地名表・改訂版』
- 小山市史編さん委員会 1981 『小山市史』史料編 原始・古代 小山市
- 小山市史編さん委員会 1984 『小山市史』通史編 自然・原始・古代・中世 小山市
- 小山市史編さん委員会 1984 『小山市史』通史編Ⅰ 史料補遺編 小山市
- 龜田幸久 1996 『八幡根東遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 181 集 栃木県教育委員会・栃木県文化振興事業団
- 龜田幸久編 1997 『金山遺跡』VI 栃木県埋蔵文化財調査報告第 188 集
栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
- 川原由典・初山孝行・芦澤清八・藤田典夫 1985 『鹿の巣前遺跡・本郷前遺跡・向野原遺跡』
栃木県埋蔵文化財調査報告第 70 集 栃木県教育委員会・財団法人栃木県文化振興事業団
- 川原由典・藤田典夫 1984 『中久喜遺跡』小山市史編さん委員会編 『小山市史 通史編Ⅰ 資料補遺編』 小山市発行
- 小第一成編 1995 『横倉遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 182 集
栃木県教育委員会・財団法人栃木県文化振興事業団
- 斎藤達也・江原英 2016 『横倉遺跡・横倉戸・豊見塚古墳群』栃木県埋蔵文化財調査報告第 383 集
栃木県教育委員会・(公財)とちぎ未来づくり財団
- 篠原祐一・江原英・岡山亮子 2016 『金山遺跡(第 2・第 3 次調査)』
栃木県埋蔵文化財調査報告第 380 集 栃木県教育委員会・(公財)とちぎ未来づくり財団
- 鈴木一男 1993 『小山の遺跡 2-10 年間の発掘成果一』小山市立博物館
- 鈴木一男 1994 『宮内 5 号墳墳形確認調査』小山市立博物館報 11 小山市立博物館
- 竹澤謙・塙原孝一・阿部茂・野崎達・後藤信祐 1990 『雁ノ台遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 107 集
栃木県教育委員会・財団法人栃木県文化振興事業団
- 鈴木一男 2002 『西山遺跡』IV 小山市文化財調査報告書第 57 集 小山市教育委員会
- 鈴木一男 2005 『小山城跡』II 小山市文化財調査報告書第 62 集 小山市教育委員会
- 鈴木一男 2007 『日光道西遺跡』IV 小山市文化財調査報告書第 71 集 小山市教育委員会
- 鈴木一男 2007 『外城遺跡・外城中台遺跡』小山市文化財調査報告書第 72 集 小山市教育委員会

第2章 遺跡の歴史

- 沖野仁編 1993～1997 「金山遺跡」 I～V 桶木県埋蔵文化財調査報告第 135・148・160・179・187 集
桶木県教育委員会・財団法人桶木県文化振興事業団
- 野口静男 1993 「西高梅遺跡」「小山の遺跡 2」 小山市立博物館
- 野口静男・東園千尋男・都山雅友・三沢京子・松井泉 1996 「西山遺跡発掘調査報告書・第 3 次調査」 小山市文化財調査報告第 34 集 小山市教育委員会
- 祠山举行・江原英ほか 1996～2001 「寺野東遺跡」 I～VIII 桶木県教育委員会・小山市教育委員会・財団法人桶木県文化振興事業団ほか
- 福田定信 1987 「梁古墳群」「桶木県埋蔵文化財保譲行政年報 昭和 61 年度」
- 桶木県埋蔵文化財調査報告第 88 集 桶木県教育委員会
- 福田定信 1993 「梁古墳群」「小山の遺跡 2」 小山市立博物館
- 福田定信・三沢正善・秋山隆雄・野口静男 1992 「下大塚遺跡発掘調査報告書」 小山市文化財調査報告第 29 集 小山市教育委員会
- 三沢正善・人塚昌彦 1987 「乙女不動院北面遺跡 B 地点発掘調査報告書」 小山市文化財調査報告第 18 集 小山市教育委員会
- 三沢正善 2000 「小山遺跡」 小山市文化財調査報告書第 48 集 小山市教育委員会
- 三沢正善・福田定信・鈴木一男 2001 「西山遺跡」 III 小山市文化財調査報告書第 53 集 小山市教育委員会
- 三沢正善・人塚昌彦 1987 「乙女不動院北面遺跡 B 地点発掘調査報告書」 小山市文化財調査報告第 18 集 小山市教育委員会
- 三沢正善 1990 「八幡根東遺跡発掘調査報告書」 小山市文化財調査報告第 24 集 小山市教育委員会
- 南河内町史編さん委員会 1992 「南河内町史」 史料編 I・考古 南河内町
- 結城市教育委員会 1984 「結城市遺跡分布図・地名表」 結城市文化財調査報告書 第 2 集
- 結城市史編さん委員会 1980 「結城市史」 第四巻・古代中世通史編 結城市

第3章 発見された遺構と遺物

第1節 概要

西高椅遺跡の発掘調査は、道路の拡張幅の限られた調査区であったが、古墳の横穴式石室1基と土坑3基、溝1条が発見できた。遺物は、横穴式石室から土師器の破片が数点出土したのみである。

西高椅遺跡は、小山市教育委員会並びに小山市教育委員会から委託を受けて、公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターが発掘調査を実施している。西高椅古墳群に位置的に近いため、古墳群の一部と考え、これらの発掘調査で用いた古墳の番号に続く西高椅115号墳とした。他の遺構については、発掘調査時のSK、SDを使用している。

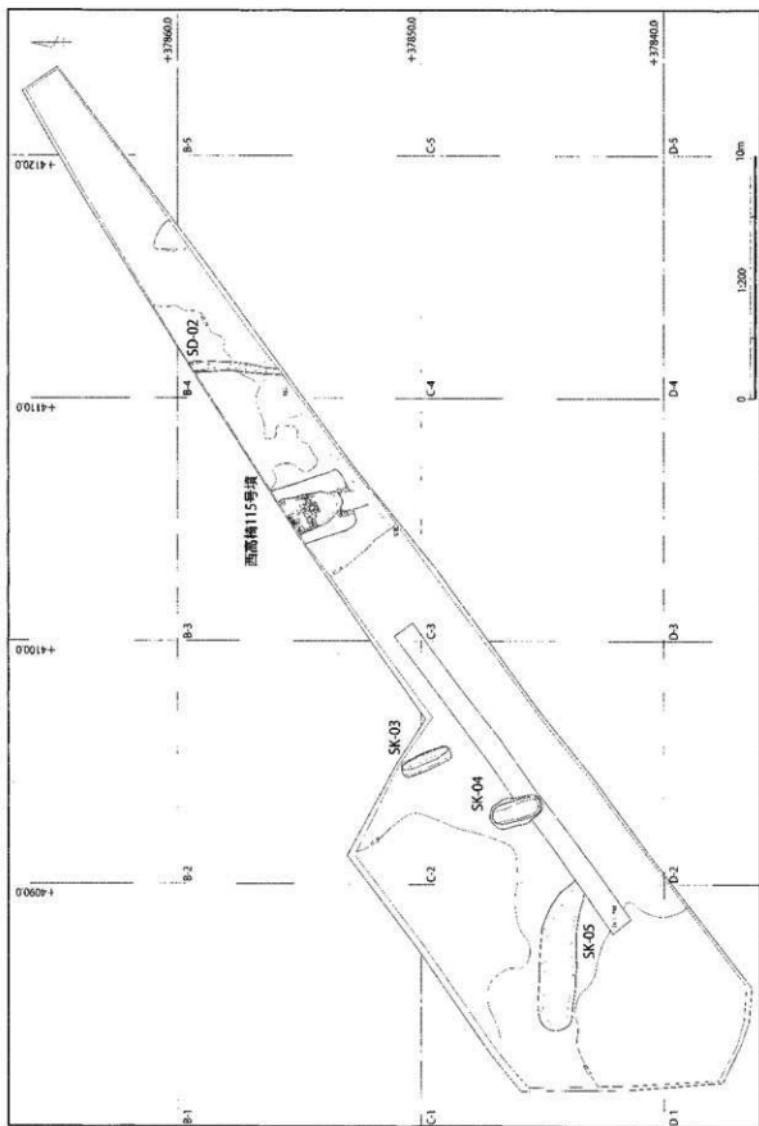
第2節 発見された遺構と遺物

西高椅115号墳（第7～10図、写真図版六～十）

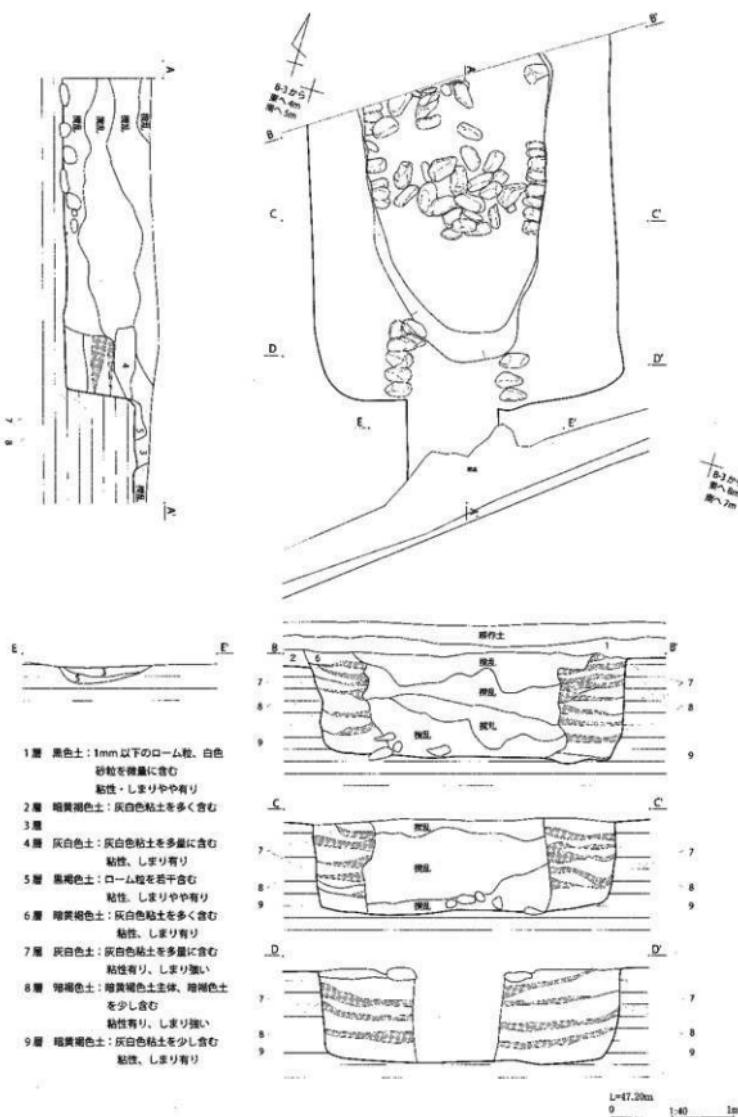
古墳時代終末期前半の横穴式石室である。県道拡幅用地の調査区幅内だけを調査した。この石室の周囲を取り巻くような古墳周溝は残っていないが、石室の規模が大きいことからみて古墳と判断した。独立した墳丘を持たない古墳と考えるよりも、古墳と周溝の規模が小さいために周溝が消滅したものと推定するほうが妥当である。石室は河原石小口積みで、胴張形の玄室の南側に一段高くて短い羨道を持つ横穴式石室である。地山を深く掘り込んだ石室掘方の中に玄室と羨道を造り、羨道と同じ幅でその南側に溝状の墓道が続く。

玄室の床面は石室掘方の底面にある。石室残存状況図に記入した床面の石は、周囲の壁石が崩れ落ちた二次的な石である可能性が高い。周辺遺跡の事例からみて、床石として底面に小円礫を敷いていたことを推定できるが、本来の床石はすべて攪乱で除去されている。石室残存状況平面図で調査区北壁際の西半部付近には小円礫が4点あるのが、本来の床石の残骸であるかもしれない。玄室の奥半部は調査区の北側へ続く。玄室の側壁は、長さ16cm～25cm、径10cm～12cm前後の長い河原石で積む。東西両壁ともに、玄室の南部は根石（最下段の壁石）まで攪乱で抜かれている。玄室の北部は根石を含めて2段目または3段目の壁石まで残っている部分が現状で最も高い。玄室平面形を反映する、根石の抜かれた痕跡と見られる窪みを、石室根石平面図に破線で記入した。羨道と玄室の床面の間に明確な段を持ち、この部分で河原石小口積みの玄室南壁面をなしていたことを推定できるが、全く残っていない。玄室壁石下の深さ2cm未満の窪みを、石室掘方平面図の底面に示した。この形状が細長いU字形またはV字形であることから、玄室下半部の南壁面が、側壁から曲面状に連続して作られていたことを推定できる。

羨道は、石室掘方底面から高さ54cm～62cmまで埋め戻した上に造る。羨道壁石は長さ22cm～24cm、径8cm～14cmの細長い河原石で、その大きさは玄室の壁石と近い。羨道の床面に敷かれた石は認められなかった。攪乱によって羨道床石がすべて除去された可能性も考えられる。しかし、羨道側壁は最下段の根石まで残っている部分が多いのに、その中間の羨道幅60～70cmだけ床石が全く残っていない状況を考えると、羨道には最初から床石がなかった可能性のほうが高いかもしれない。玄室床面に床石として敷いていた円礫の厚さを10cm前後と仮定した場合、玄室床面から羨道床面までの段差は40cm～50cm程度を推定できる。羨道底部部分には縦断面上層図の4層がある。この土が、羨道の床面を整地した層であるか、またはそれが攪乱された層の可能性がある。4層のしまりが強くて粘土を多く含む点は羨道床面整地土層の可能性を示す一方で、石室閉塞石の除去によって墓道側から入ってきたと見られる5層と不自然に重なっている状況は少なくとも一部が攪乱されたことを示唆している。



第6図 遺構配置図



第7図 第115号墳平面図（1）

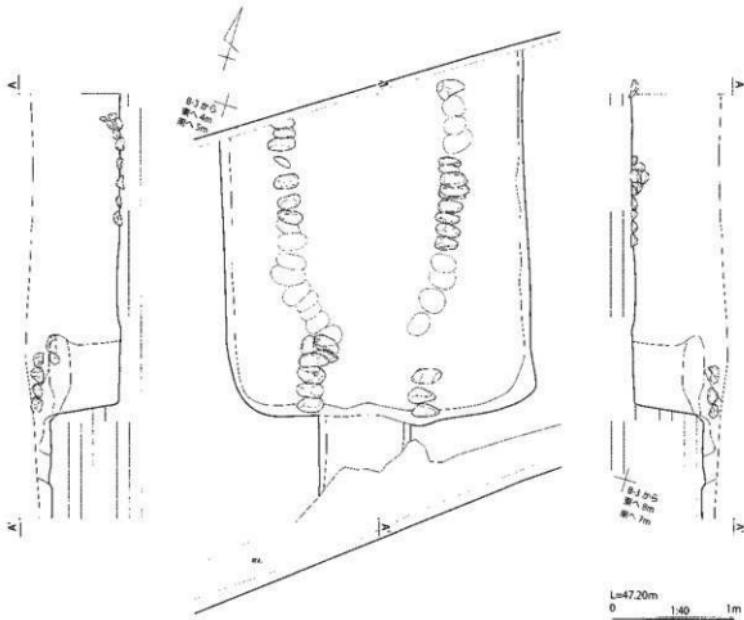
石室の規模は、玄室最大幅 116cm、残存する南端部での玄室幅 108cm、調査区内での推定玄室長は 220cm 前後で、調査区北側外へ続く玄室を推定すると本末の玄室全長は 3m を超えると見られる。羨道長 60cm、羨道幅 62 ~ 72cm。石室主軸方位は GN-17°-E（羨道の開口方位で示すと GS-17°-W）である。

石室の掘方は長方形で、調査区内での南北長 310cm、東西幅 258cm、確認面からの深さが 72 ~ 77cm である。

墓道は幅 64cm、確認面からの深さ 14cm。墓道は長さ 66cm まで現存して、その南側は掘乱で破壊されている。この掘乱は、石室亂掘というよりも調査区南側にある道路の工事等に關わる掘乱の可能性がある。この部分の擾乱土中から古墳時代終末期ころの上師器杯小破片が数点出土した。本来は石室の入口部から墓道部にかけての位置で埋葬に關わる儀礼などに用いた土器であろう。墓道の埋土 3 ~ 5 層は E-E' 断面図を見ると自然埋没状に堆積している。墓道から羨道部分まで続く 3 ~ 5 層は、本来は石室の閉塞石が置かれているのが自然な位置まで続いているので、石室への追葬または後世の亂掘で閉塞石が除去された後に、墓道の埋没土である 3 層と 5 層が墓道側から崩れて流入してきた上と推定することも可能である。

石室の裏込土は、最下部は石室横断面図の 9 层（灰白色粘土を少し含む暗赤褐色土）を入れて、その上には 7 層（灰白色粘土）と 8 層（暗褐色土）を交互に入れている。裏込土中には、河原石や円礫などは混入されていない。羨道部分の下部を 50cm 以上埋め戻した部分も、石室裏込土と同様の上層が入れられている。

石室掘方の底面には、薄くロームの層位が見られる。このロームの層位から、掘り方の上にロームを薄く



第8図 第115号墳平面図(2)

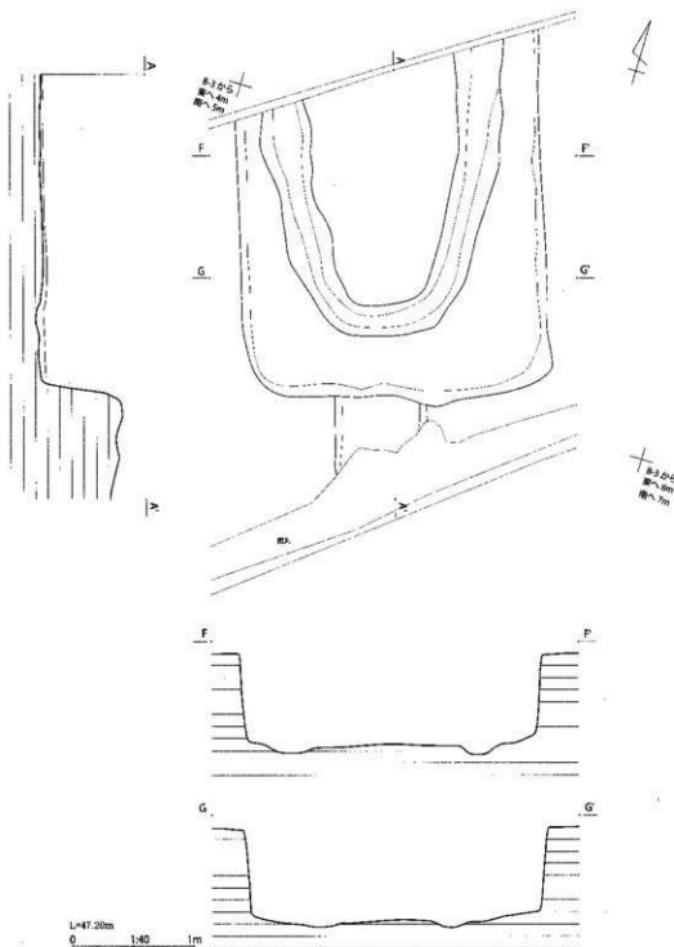


第9図 第115号墳出土遺物

敷いて整地して、その上に円窪を敷いて床面にしていた可能性が考えられる。

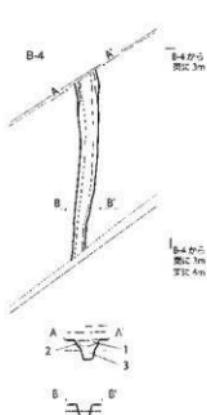
SD-02（第11図、写真図版十四）

両端が調査区の外に出ており、幅30cm～50cm、深さ25～40cm前後を測る。長さは不明であるが、調査区内での長さは3.5mである。



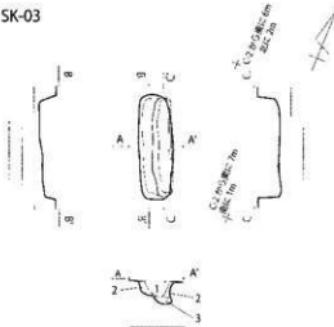
第10図 第115号墳平面図（3）

SD-02



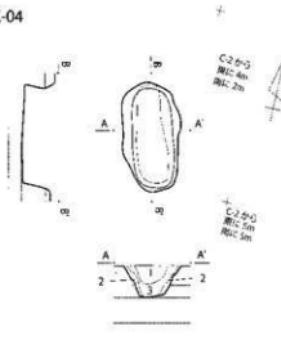
- 1層 黄褐色土 ローム粒をやや多く含む。粘性、しまりやや有り。
- 2層 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。粘性、しまりやや有り。
- 3層 黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性やや有り、しまり無し。

SK-03



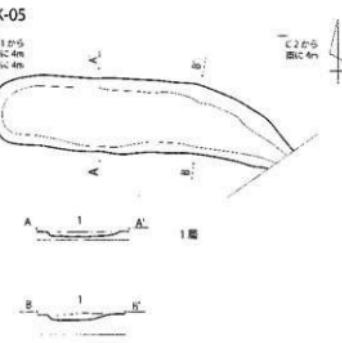
- 1層 黄褐色土 ローム粒少量、灰色塊を微量に含む。粘性、しまりやや有り。
- 2層 灰黄褐色土 5~10mmのロームブロックを少量、灰色塊を微量に含む。粘性、しまりやや有り。
- 3層 始共開色土 コーム粒、20~30mmのロームブロックを多く含む。粘性、しまり有り。

SK-04



- 1 黒褐色土 ローム粒、5~10mmのロームブロックを少量、灰色塊を微量に含む。粘性、しまりやや有り。
- 2 灰黄褐色土 ローム粒少量、5mm程度のロームブロック、灰色塊を微量に含む。粘性、しまりやや有り。
- 3 始共開色土 ローム粒が多く、20~30mmのロームブロックを微量に含む。粘性、しまり有り。

SK-05



- 1 黒褐色土 ローム粒少量、灰色塊を微量に含む。粘性、しまりやや有り。

0 1:100 5m

第11図 造構平面図

覆土は2層で自然堆積と考えられる。遺物の出土は無かった。

SK-03 (第11図、写真図版十一)

隅丸長方形を呈し、長径230cm、短径70cmを測り、深さは深い所で0.5m、西側が段になっており、段までの深さ0.25mである。段の部分と底面は平坦で、段の平坦部は長径190cm、短径25cmを測り、底部は、長径180cm、短径約20cmである。主軸の方位はGN-23°-Eである。東側の壁面は深く抉り込まれている。形状から土塙墓の可能性が考えられる。遺物の出土は無かった。

SK-04 (第11図、写真図版十二)

不整な隅丸長方形を呈し、長径220cm、短径130cm前後、深さ65cmを測る。底面は長径200cm、短径60cmである。北側の壁が若干外側に広くなっている。主軸の方位はGN-14°-Eである。遺物の出土は無かった。

SK-05 (第11図、写真図版三)

不整形を呈する。長径640cm、短径160cm前後、深さ10cmを測る。浅く残存状態は悪いが、覆土の状況から、古墳の周溝の可能性も考えられる。

第3節 まとめ

限られた調査区のなか、横穴式石室を調査する事ができた。西高椅遺跡ではこれまでに、114基の古墳が調査されている。それらの成果から、今回発見した横穴式石室について述べる。

〔後期・終末期古墳の横穴式石室〕 西高椅遺跡における後期古墳の中心埋葬施設は、河原石小口積みで長方形の横穴式石室が古墳時代後期後葉(TK43型式並行期・6世紀後葉の西高椅90号墳)から採用される。これに統いて河原石小口積みで玄室が胴張形の横穴式石室が古墳時代後期末葉(TK209型式並行期・6世紀末～7世紀初頭)に採用され、35・39・44・52・53・56・66・71・84・104・105・109・111・114号墳などにみられる。古墳時代終末期前半(飛鳥I・II並行期・7世紀前葉～中葉)の112・115号墳も同様に玄室が胴張形の横穴式石室である。玄室が胴張形の横穴式石室では、羨道構造が確認できないものが多いのが特徴である。この原因として、西高椅44・56・66・112・115号墳で認められたように羨道の下部を高く埋め戻した上に羨道を造っているために、羨道部だけが後世に削平されて消滅する場合が多いことが考えられる。このような状況は、南にある寺野東遺跡の古墳後期末葉の17・20・21・29号墳などでも同様である(津野仁1998『寺野東遺跡』VII 古墳時代墳墓編 財団法人栃木県文化振興事業団)。

西高椅遺跡では、遺構確認面レベルでは石室前に溝状の墓道が認められない横穴式石室が一般的である。墓道のある90・111・112号墳はそれぞれ後期後葉・後期末葉・終末期前葉と考えられるので、溝状の明確な墓道を持つことが特定の時期に限られる状況ではない。溝状の墓道がある112号墳の場合、羨道の下部を掘方底面から高く埋め戻し、短い羨道から玄室へ段を降りて入る構造にする。90号墳の場合は、掘方底面から積み上げて構築した羨道の下部を河原石積みと埋土で高く埋め戻して、羨道から玄室へ段を下りて入る構造にしている。111号墳もそのような構造で最初計画していた石室であるが、当初の石室掘方の大半を埋め戻して、羨道から玄室へ降りる段を持たない構造に変更している。

西高椅115号墳の横穴式石室は、石室南側の溝状墓道、玄室入口の段差、羨道よりも下層の埋め戻し構造を持つ点で、古墳終末期前半と見られる西高椅112号墳の石室に共通する点が多い。115号墳で出土した上師器杯からも、古墳時代終末期前半である可能性が考えられる。

写 真 図 版

図版一
西高椅遺跡航空写真（1）



西高椅遺跡航空写真（北西から）



西高椅遺跡航空写真（北から）

図版二 西高椅遺跡航空写真（2）



西高椅遺跡航空写真（北から）



西高椅遺跡航空写真（真上から）

図版三 西高椅遺跡航空写真（3）

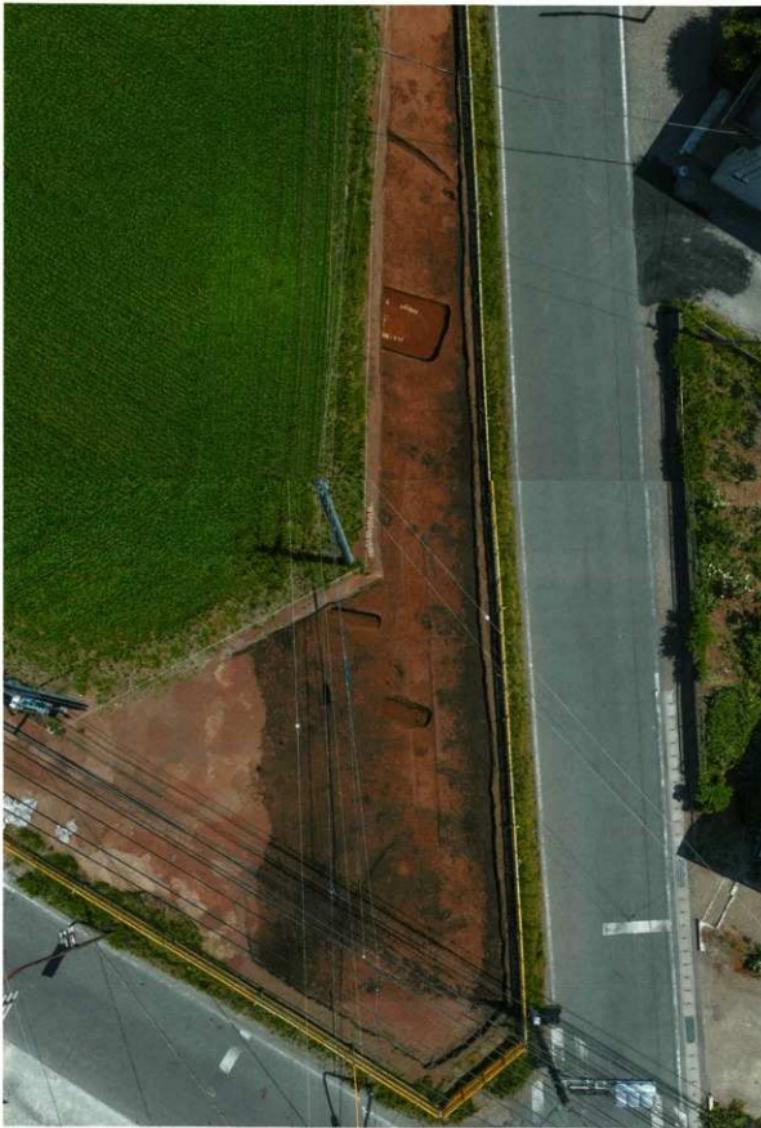


西高椅遺跡航空写真（真上から 上が南）



西高椅遺跡航空写真（真上から 上が南）

図版四
西高椅遺跡航空写真（4）



西高椅遺跡航空写真（真上から 上が東）

図版五 西高椅遺跡航空写真（5）



西高椅遺跡航空写真（北東から）



西高椅遺跡航空写真（北東から）

図版六
西高椅遺跡遺構写真（一）

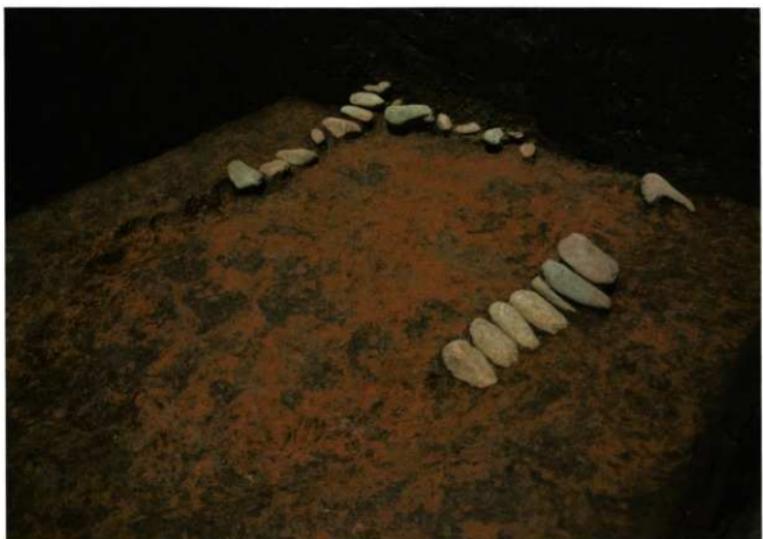


西高椅 115 号墳 側壁残存状況（南から）



西高椅 115 号墳 側壁残存状況（南西から）

図版七 西高椅遺跡遺構写真（2）



西高椅 115 号墳 側壁残存状況（南東から）



西高椅 115 号墳 完掘状況（南西から）

図版八
西高椅遺跡遺構写真（3）



西高橋 115 号墳 側壁礫抜き取り状況（南西から）



西高橋 115 号墳セクション（南から）

図版九 西高椅遺跡遺構写真（4）



西高椅 115 号墳セクション（南から）



西高椅 115 号墳セクション（南から）

図版十 西高椅遺跡遺構写真（5）



西高椅 115 号墳羨道（南から）



西高椅 115 号墳羨道部（南西から）

図版十一 西高椅遺跡遺構写真（6）



SK-03 完掘状況（南から）



SK-03 セクション（南から）

図版十一 西高椅遺跡遺構写真（7）



SK-04 完掘状況（南から）



SK-04 セクション（南から）

図版十三 西高椅遺跡遺構写真（8）



SK-05 完掘状況（南から）



SK-05 セクション（東から）

図版十四 西高椅遺跡遺構写真（9）



SD-02 完掘状況（南から）



SD-02 セクション（南から）

報告書抄録

ふりがな	にしたかはしいせき							
書名	西高椅遺跡							
副書名	快速で安全な道づくり事業費（補助）一般県道結城石橋線延島工区に伴う発掘調査報告							
卷次								
シリーズ名	栃木県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第401集							
編著者名	榎木茂雄							
編集機関	公益財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター							
所在地	〒329-0418 栃木県下野市紫474番地 TEL 0285-44-8441							
発行機関	西暦 2020年3月30日（令和2年3月30日）							
発行年月日	栃木県教育委員会 公益財団法人とちぎ未来づくり財団							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 巾町村 遺跡番号	北緯 °'\"	東経 °'\"	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
にしたかはしいせき 西高椅遺跡	おまたかはし 小山市高椅	小山市 09208 (394)	382 36°34'10" 9028	139°87'88" ~ 20200330		490	県道拡幅工事	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
西高椅遺跡	古墳	古墳時代	横穴式石室1基 土坑3基	土師器			古墳時代の墓域	
		時期不明	溝跡1条					
要約	田川の西岸の台地に築造された西高椅古墳群に含まれる1基の横穴式石室を調査。西高椅古墳群は、小山市の委託をうけて、公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターで発掘調査を実施し、114基の古墳を調査している。今回、発掘調査した古墳は、この西高椅古墳群の北西に位置しており、現状での古墳群の北側の広がりを知ることができた。							

栃木県埋蔵文化財調査報告第401集

西高椅遺跡

－快速で安全な道づくり事業費（補助）－一般

県道結城石橋線延島工区に伴う発掘調査－

発行 栃木県教育委員会

宇都宮市篠町1-1-20

TEL 028(623)3425

公益財團法人とちぎ未来づくり財團

宇都宮市本町1-8

TEL 028(643)1011

令和2年3月30日発行

編集 公益財團法人とちぎ未来づくり財團

埋蔵文化財センター

下野市紫474番地

TEL 0285(44)8441

印刷 株式会社井上総合印刷
